

「ベテランは足を保護する」が語りかけるとき

保田 祥[†] (国立国語研究所 コーパス開発センター)
立花 幸子 (国立国語研究所 コーパス開発センター)
柏野 和佳子 (国立国語研究所 言語資源研究系)
丸山 岳彦 (国立国語研究所 言語資源研究系)

When a Sentence such as “Experienced people protect their feet” is Addressed to Readers

Sachi Yasuda (Center for Corpus Development, NINJAL)
Sachiko Tachibana (Center for Corpus Development, NINJAL)
Wakako Kashino (Dept. Corpus Studies, NINJAL)
Takehiko Maruyama (Dept. Corpus Studies, NINJAL)

1. はじめに

本稿は、語レベルでは特徴的表現の出現頻度が高くないが、全体としてある種の文体が感じられると判断されるテキストについて考える。

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)に収録されている図書館サブコーパスの書籍サンプル(全10,551サンプル・35,732,431語¹)に、文書分類の観点から人手で情報を付与する作業を実施した(柏野・奥村,2012)。付与された観点の一つに「語りかけ性」(とてもある・どちらかといえばある・特にない:3段階)がある。「語りかけ性」とは、直感的には「あなた」「みなさん」などのような呼びかけ表現や「ではないでしょうか」「だよね」といった、問いかけもしくは相づちを求める文末表現などを含むテキストに見られ、著者が読み手に対して直接語りかけていると解釈できる文体(柏野,2010など)である。本稿は、このような文体が含まれると判断されたテキストを「語りかけ性」があるテキストと呼び、この観点付与結果を分析対象とする。

このような「語りかけ性」があると判断されたサンプル群は、判断根拠となる特徴的な表現が、語レベルの表現について出現頻度を分析することでは得にくい傾向がある(保田ほか,2012aなど)。そこで、「語りかけ性」があると判断されたテキストにあっても、「語りかけ性」に特徴的と考えられる表現が含まれないような文について考察し、それらが語りかけるテキストとどのように関連しているのかを考えたい。

そのため、本稿は、特徴的表現の出現頻度ではなく、テキストのまとまりを単位としたサンプルあたりの出現量を確かめる(4.1)。次に、語レベルではなく文などの大きな単位レベルでの特徴的な表現の頻度情報を調べる(4.2)。さらに、文脈の提示が書籍タイトルから予めなされている場合の多いことを確かめる(4.3)。これらの結果により、一見「語りかけ性」に特徴的と考えられる表現が見当たらなくとも、「語りかけ性」があると判断されるテキストがどのようなものか考察する。

2. 先行研究と本研究

書籍は読まれることが前提であり、広義には読み手に向けて語りかけるべく書かれているものと考えられるが、話しことばと等しいのではない。三宅(2005)は、「話しことば」の典型としてイメージされるものが「おしゃべり」であるとする。保田ほか(2012a)の調査では、書きことばであっても話しことば的であると判断されるテキストには、リアルタイム性と関わるフィラーや言いよどみ、音声的变化に関わる融合などが現れているが、「語

[†] yasuda_s@ninjal.ac.jp

¹ 空白・記号を除く場合は、28,892,944語(中納言「語数」を参照。<https://maro.ninjal.ac.jp/wiki/>)。

りかけ性」があるとされるテキストにはその種の特徴が現れにくいという差異が見られた。「話しことば的」と判断されるテキストは、戯曲調で地の文がト書きの場合や講演の書き起こし、一人称小説などに限定され、書籍サンプルの0.6%²と僅少で、「語りかけ性」とは異なるものと判断されるのである。

以下に、「語りかけ性」があると判断されたテキスト例を示す。「語りかけ性」があると分類されたテキスト群において、語レベルの出現頻度で特徴的であった表現(保田ほか, 前掲)に下線を施した。例1は、疑似的な対話形式が用いられており、読み手に対する人称(「あなた」)や接頭辞(「お」)のほか、文末に終助詞(「ね」「よ」)や勧誘(意志推量形「ましょう」)のような特徴的表現が見つかる。

1) お年寄りや赤ちゃんを連れて人、重い荷物を持った人には、席をゆずりましょう。

席をゆずるのは、あなたが立っていても平気なときだけよ。病気やケガをしているときは無理をしなくてもいいの。

また、ゆずられた方は、「ありがとうございます」とお礼を言い、会釈をします。また自分が降りるとき、あるいは替わってくれた人が降りるときも、もう一度軽く「ありがとうございます」と言うのをおわすれなくね。(バーバラ寺岡「魅女ってみませんか」)

岸本(2005)は、「ネット日記」の「読み手意識表現」として、「読み手めあて」で用いられる丁寧体(調査結果における頻度順位1位)や伝達態度を示す終助詞(「よ」「ね」: 同順位2位)を分析している。上に示した例1は、そのような「読み手意識表現」としての特徴が見られているものと考えられる。

また、野田(2012)は、「ブログや軽い文体のエッセイの文章」について、典型的な書きことばとは異なり「書き手と読み手とのコミュニケーションが意識されている」とし、エッセイ末の「読み手を意識した表現」を調査している。結果として、エッセイ末には読み手の存在を特に意識した表現(丁寧体・終助詞・疑似独話・余韻を感じさせる表現など)が多く現れていることを示すが、同時に、表現の種類や頻度には個人差も大きいことを示している。実際に、保田ほか(2012bなど)の調査結果でも、例1で見たような「語りかけ性」があると判断されたサンプル群に高頻度な語レベルの特徴的表現(「読み手」を意識した表現とされる丁寧体や終助詞といった特定の表現はこれらに含まれる)の出現頻度が、テキストによってはとりたてて高いとも限らず、ばらつきのあることが確認された。

以下の例2に、語レベルで「語りかけ性」があると判断されたサンプル群に特徴的であった表現(出現頻度の高い表現)を含まない例を示す。但し、「語りかけ性」があると判断したアノテーターのコメントから、その判断基準とされた表現を下線で示す。語レベルの出現頻度からは特徴的であると判断されにくいのが、それでもなお「語りかけ性」を感じるとされた表現である。読み手を意識したと考えられる婉曲化(「思う」など)や読み手に対する動作(「説明する」など)のほか、評価(「構わない」「問題はない」)や可能(「可能」「出来る」など)も、読み手に対してのアドバイスと感じたとのコメントが得られており、これらも「語りかけ性」に特徴的な表現といえる。

2) カップリングコンデンサが大きい場合、オレンジ色の側の配線が同じようにICソケットの足にハンダ付けできればどのように付けても構わない。完成図を見てもらえれば分かると思うが、コンデンサの左の部分は大きくスペースが残してあるので、アキシャルリードのものも基板上に取り付け可能だ。また、大きすぎて基板からはみ出したとしても、特に問題はない。なお、後で説明するが、このコンデンサは無しにも出来る。

(酒井智巳「はじめてつくるプリアンプ」)

² 図書館サブコーパスからランダムに選出した1,890サンプル中、3人のアノテーターが「話しことば的」と判断したサンプルは12サンプルにすぎなかった。

例2に現れたような種類の表現群が見られることで、「語りかけ性」が感じられるという可能性が考えられるが、例1に見られたような特徴的表現と異なり、この種類の表現は「語りかけ性」の有無によって分類したサンプル群ごとに出現頻度を比べても、そもそもの出現頻度が僅少であったり、文脈によって語感が異なったりするため、大差が見られない。しかし、アノテーターが分類のための根拠としたとすれば、サンプルとしてのテキスト内で印象に残ったということでもあり、テキストのまとまりを単位とすれば、出現数に差の見られる可能性はあろう。

さらに、語レベルの特徴的な表現が見つかりにくい文であっても、文脈によって「語りかけ性」が感じられる場合はあり得る。以下の例の下線部を施した部分は、「語りかけ性」があると判じられたサンプル群に出現頻度の高い表現も、アノテーターが「語りかけ性」があるとの判断根拠にしたという表現も見つからない。しかし、「語りかけ性」があるとされたサンプルの多くを占める、特徴的な表現のないテキストである。

3) すべると危険です。釣り上げられて跳ねた魚や自分の釣りバリでケガをするかもしれません。ベテランは、釣り物によっては真夏でも釣り用ブーツで足を保護しています。小物釣りでも滑らないスニーカーなどを履きたいものです。(井田玲子「超明解! 船釣り入門 ABC」)

4) パンツは化学繊維などの混紡で、通気性のある、肌にまとわりつかない物がよいでしょう。伸縮性のあるジーンズも市販されています。よく綿のジーンズを見受けますが、厚手のそれは濡れると硬くゴワついて動きにくくなるし、乾きも悪いのです。(同上)

例3・4は、前後に「履きたいものです」や「よいでしょう」が現れていることで、文脈上「語りかけ性」が読み取れるとも考えられるが、下線部内に例1・2に示されたような表現があるのではないため、テキスト全体として、特徴的と考えられる表現の出現頻度は減少することになる。特徴的な表現の出現頻度が低くとも、印象的な表現がテキスト内に出現することで「語りかけ性」があると判断されるという可能性が考えられる。但し、アノテーターのコメントによれば、特徴的な表現が見つかってでもそれらが多くはないと感じた場合は、全体として「語りかけ性」があるとは判断しなかった旨が記述されていた(保田ほか, 2012)。読み手は、特徴的な表現のテキスト全体における出現量を鑑み(4.1で後述)、「語りかけ性」を感じている可能性がある。

しかし、なぜ特徴的表現が少ないサンプルでも「語りかけ性」があると判断されるのだろうか、という疑問がある。そこで、上記の例1から4は全て、これまでに読み手を意識した表現が出現しやすいと考えられてきたブログやエッセイではないテキストであるということに着目したい。

「語りかけ性」は、上記の例に見られたいわゆるハウツー系の書籍にも出現しやすい傾向がある(保田ほか, 2013a など)。ハウツー系の書籍は、読み手がテキストに要求する解答に答えることを明示している可能性があり、客観的であることが望ましい社会科学・自然科学分野に多く、「語りかけ性」と主観的なテキストであることに相関はない。教示的態度を強調するために「語りかけ性」が用いられているのだといえる(保田ほか, 2013b)。ハウツー系の書籍の文脈に見られやすい語よりも大きな単位の文レベルで照応があるような表現(4.2で後述)や、予めハウツー系の書籍であることが明示されているなどで書き手と読み手の関係が設定されること(4.3で後述)によって、「語りかけ性」が感じられる可能性が考えられるのではないだろうか。

3. データ

本稿は、BCCWJの図書館サブコーパスに含まれる書籍の10,551サンプルをランダムに並べ替え、6人の作業者が文書分類を行ったアノテーション結果(柏野・奥村, 前掲)を用いて分析を行った。

全 10,551 サンプル (可変長サンプル, 35,732,431 語) のうち, 「語りかけ性」がある³と判断されたサンプルは 2,211 サンプル (7,128,885 語), ないと判断されたサンプルは 6,607 サンプル (23,350,311 語) である。

特徴的な表現の検索に「中納言 1.1.0 (<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>), 短単位データ 1.0・長単位データ 1.0」を用いたほか, サンプルの形態素解析に, MeCab 0.993+UniDic2.1.0 を用いた。分析結果に示す品詞情報や語彙素等の要素は, 解析結果に基づく。

4. 調査と結果

4.1 特徴的表現のサンプルあたりの出現量

語を基準としたサンプル群における出現頻度が 0.1%以下⁴の表現では, サンプル群ごとの出現頻度の差異は見えにくい。しかし, 語レベルの表現であっても, アノテーターが「語りかけ性」を有したテキストであるという判断の根拠にした表現 (例 2 参照) や, 直感的にハウツー系の書籍に出現しやすい印象を与える表現がある。それらは, 出現頻度の高い表現ではないが, 「語りかけ性」がある印象を形成する表現と考えられる。但し, アノテーターは, 目立った表現があったとしても「多くない」と感じた際には, テキスト全体に「語りかけ性」があると判断しないことがわかっている (保田ほか, 2012)。

そこで, 特徴的と考えられる表現例 (保田ほか, 2013a⁵) が, 語数やサンプル群全体ではなく, テキストのまとまりとしてのサンプルあたり (当該表現を含むサンプルあたり), どの程度の量出現していたのか, 「語りかけ性」有無のサンプル群 (小説サンプルを除く) 毎に確かめた。

特徴的表現の含まれるサンプルにおけるその表現の量を 10,000 語あたり⁶の平均数として表 1 に示す。「語りかけ性」の有無によって, テキストのまとまりを単位とした特徴的表現の出現量に差異が見られるといえる。特徴的な表現は, 語数を基準として算出した頻度としては目立たなくとも, 「語りかけ性」があると判断されるテキスト (サンプル) を単位とすれば, 数として多く出現し, 読み手の印象に残る可能性があるのだと確かめられた。

表 1 当該表現を含むサンプルあたりの特徴的表現量 (1 サンプルを 10,000 語に調整した際の平均数)

	という+準体助詞 という+形状助動 詞語幹	という+<もの> という+<こと>	<出来る>	<構わない> <構いません>	<私達> <我々> <我等>	<便利> <大切>
語りかけ性あり	35.0	40.5	20.2	2.2	11.9	8.2
語りかけ性なし	25.8	33.2	16.3	1.7	10.5	5.4

4.2 文脈を作り出す文レベルの特徴的表現とサンプル群別出現量

次に, 「語りかけ性」を形成すると考えられる表現のうち, 語レベルではない表現について見てみたい。「語りかけ性」があると判断されるテキストにハウツー系書籍が多い傾向が

³ 「語りかけ性」のアノテーション結果は「とてもある・どちらかといえばある」「ない」の三種類であるが, 本分析においては, 「ある」「ない」として扱った。

⁴ たとえば<構わない><構いません>は, 10,551 サンプル中に計 916 件出現する表現であるが, 「語りかけ性」の有無で分類した群内の出現率 (語数あたり) は, 両群ともに 0.001%と低いため, 単純な出現頻度では有意差は見えにくい。同様に, <便利><大切>は計 4,582 件 (各々サンプル群内の出現率は 0.005%程度), <私達><我々><我等>も計 16,658 件 (同 0.01~0.02%程度) である。

⁵ 保田ほか (2013a) では, 客観化のために主張の裏付けとして伝聞の引用表現「という」を用いることを示し, 出現頻度が「語りかけ性」がある群内における「とても客観的」と分類されたサンプル群に多いことを明らかにした。このほか, アノテーターコメントから得られた表現例を用いて調査を行った。

⁶ サンプルによって語数が異なるため, サンプルの総語数を 10,000 語あたりの調整頻度に変換した。また, 表現の形態素数によって表現量を算出した。

あるのならば、教示的態度（読み手の解答要求への応え）によって現れやすい文脈が予測される。たとえば、読み手の求める条件（例示）があって、その対応方法（結果や評価など）が示されるという文脈である。

例1では、「病気やケガをしているとき」「無理をしなくてもいい」という照応が見られる。例2でも、「カップリングコンデンサが大きい場合」「構わない」をはじめ、「完成図を見てもらえれば」「分かる」、「はみ出したとして」「問題はない」などが多数見られる。

そこで、以下のパターンの出現量を調査した。調査にあたっては、後文脈は10語以内に検索語の出現する例を取得した。取得した用例のうち、文が途切れるなどによって後文脈につながりがないと考えられるものは対象外とした。また、「語りかけ性」有無群については、会話を除外するため小説を対象外とした（「語りかけ性」あり：1,824 サンプル、なし：4,074 サンプル）。

- ① 前文脈が条件で、後文脈に特徴的表現例（名詞）を含む
- ・前文脈：動詞＋「と」（接続助詞）or 仮定形 or <時><場合>
 - ・後文脈：<必要><可能><大切><便利>を含む

例) デザイン事務所といえば、場所のイメージもやはり大切です。
(高橋慈子, 伊藤華子「家庭をオフィスにする SOHO 読本」)

742 件：「語りかけ性あり」群 244 件・「語りかけ性なし」群 360 件

- ② 前文脈が条件で、後文脈に動詞・形容詞を含む
前文脈・後文脈の種類は、頻度上位 5 種をそれぞれ脚注に示す。

- A. ・前文脈⁷：動詞＋「と」（接続助詞）
・後文脈⁸：形容詞（終止形）

例) コンニャクの球根もかじると舌が割れるほど辛い。(奥山久「山菜」)

6,607 件：「語りかけ性あり」群 743 件・「語りかけ性なし」群 813 件

- B. ・前文脈⁹：動詞＋「時」
・後文脈¹⁰：動詞

例) 壁に御影石などを貼るときは、必ず石の裏側に防水を施しましょう。
(浜口和博「プロも見落とす家づくりの急所」)

1,599 件：「語りかけ性あり」群 380 件・「語りかけ性なし」群 493 件

- C. ・前文脈¹¹：動詞＋「場合」
・後文脈¹²：動詞

⁷ すると：14.2%・みると：12.8%・いうと：8.3%・なると：7.2%・おくと：3.9%

⁸ よい：34.2%・ない：27.5%・多い：2.5%・おもしろい：1.9%・わるい：1.5%

⁹ いるとき：17.3%・するとき：15.9%・いうとき：9.8%・あるとき：4.8%・みるとき：1.6%

¹⁰ する：13.4%・いる：6.9%・ある：5.5%・いう：5.3%・なる：4.3%

¹¹ する場合：23.1%・いる場合：16.4%・ある場合：9.9%・いう場合：8.1%・なる場合：3.2%

¹² ある：21.9%・する：18.2%・なる：3.6%・いる：3.1%・いう：3.1%

例) 4回以上の支給がある場合は, 月々の報酬に含まれます。
(高橋徹編「社会保険・労働保険のすべてがわかる事典」)

4,999件:「語りかけ性あり」群 1,381件・「語りかけ性なし」群 2,114件

- D. ・前文脈¹³: 仮定形
・後文脈¹⁴: 動詞

例) 発芽してきたら, 覆っていた新聞紙をとってやる。
(稲山光男「まるごと楽しむキュウリ百科」)

54,783件:「語りかけ性あり」群 9,913件・「語りかけ性なし」群 16,792件

それぞれの表現について, 「語りかけ性」の有無群別に1,000サンプルあたりの調整頻度を以下に示した。①の結果を表2に, ②を表3に示す。それぞれ, 「語りかけ性」があると判断されたサンプル群における出現量が多いことがわかる。文レベルでも, 特徴的な表現が出現しているといえよう。

表2 「語りかけ性」の有無とサンプル群別出現量 (調整頻度 1,000 サンプル, 条件+後文脈内要素)

	<必要>	<可能>	<大切>	<便利>	4種計
語りかけ性あり群	11	48	18	43	121
語りかけ性なし群	7	39	6	12	64

表3 「語りかけ性」の有無とサンプル群別出現量 (調整頻度 1,000 サンプル, 条件別)

	動詞+と形容詞(終止形)	動詞+時動詞	動詞+場合動詞	仮定形動詞
語りかけ性あり群	353	208	757	5,435
語りかけ性なし群	200	121	519	4,122

4.3 書籍タイトルに見る書き手と読み手の関係性の設定

本稿で扱っているサンプルが書籍サンプルに限られるため, 書籍タイトルから「語りかけ性」が含まれるテキストであるかという推測が可能かを調べた。ハウツー系書籍であれば, 読み手が予め目的意識を持ってテキストを読むことが推測され, そのためテキスト内容の代表たるタイトルに, 解答の要求に応える旨の明示が期待されるからである。

4.3.1 方法と手順

調査は, 図書館サブコーパスの書籍タイトル(10,551件)を用い, 2名の作業員(第一発表者・第二発表者)が, (1)タイトルから語りかけていると予測可能か(ハウツー本であるか)否か, (2)タイトルに判断根拠たる指標が含まれているか否か・指標等はないがそれらしいと感じるか否か, を付与した。

作業員がタイトルに付与した「語りかけ性」の予想結果と, 実際にテキストを読んで「語りかけ性」があると判断された結果の対照を行った。

4.3.2 結果(1)

10,551サンプル中 8,818サンプルがアノテーション対象であり, そのうち作業員Aが

¹³ た(たら): 25.6%・ない(なけれ): 22.3%・だ(なら): 16.4%・ず(ね): 5.8%・する(すれ): 4.3%

¹⁴ なる: 25.5%・する: 9.1%・いう: 4.8%・ある: 3.2%・できる: 1.8%

2,150 サンプル, 作業員 B が 2,011 サンプルについて, 本文に「語りかけ性」が予測されると判定した。実際のアノテーション結果で「語りかけ性」があると判断されたサンプル数は 2,211 サンプルである。

作業員 A と B の判定の一致率 (F 値) は 77.3%であった。しかし, 作業員 2 名が共通してタイトルから推測したサンプルと実際のアノテーション結果の一致率 (F 値) は 42.5%に留まる。タイトルから推測される「語りかけ性」は, 作業員間で 8 割程度一致するが, 実際の結果とは半数程度しか一致しないという結果になった。

それでは, タイトルから判定できない「語りかけ性」は何であったのか。図 1 は, タイトルからの推測結果とアノテーション結果について, それぞれ NDC 分類と C-code 分類による内訳を示したものである。網点部分が 2 種類の差異が明確な部分である。NDC 分類では 9 番台 (文学), C-code 分類では 8 番台 (児童) でアノテーション結果に多いという違いの生じていることがわかる。タイトルからの推定と本文のアノテーション結果が不一致となったサンプルを見ると, NDC9 番台・C-code8 番台ともに, 物語・小説と推測されるタイトルが並んだ¹⁵。以下に例を挙げる。

- ・ NDC9 番台 (文学) の不一致例: 「野に出た小人たち」「短篇ベストコレクション」「窠変源氏物語」「世界探偵小説全集」「メグレたてつく」など
- ・ C-code8 番台 (児童) の不一致例: 「目をさませトラゴロウ」「イワンのぼか」「動物園ほのぼの日記」「いたずらまじょ子のヒーローはだあれ」など

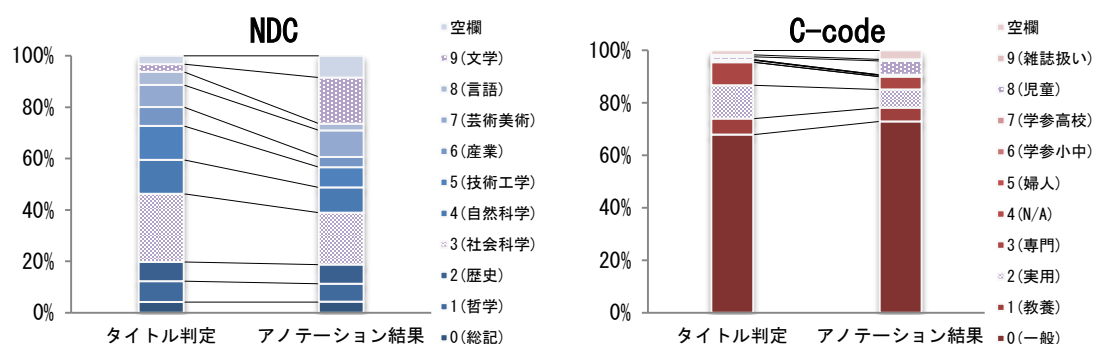


図 1 タイトル判定とアノテーション結果の NDC・C-code による内訳

なお, タイトルから判定された結果は, NDC3 番台 (社会科学) と C-code2 番台 (実用) でアノテーション結果より多い。NDC3 番台と C-code2 番台は, それぞれハウツー系書籍の多い分類であり, ハウツー系書籍と判断されたタイトルでも, 本文においては「語りかけ性」がないと判定されたサンプルが見られるということでもある。但し, サンプル部分が「語りかけ性」なしという判定であっても冊全体がハウツー本でないというわけでもない。「語りかけ性」があるとタイトルから推定されたが, アノテーション結果では判定されなかった例の画像データを見ると, 図鑑的部分がサンプルとなっており, レシピ部分は「語りかけ性」があると判定されそうであるが範囲外という書籍 (例: 「とっておきの山菜利用術」) や, インタビュー部分が「」内であってアノテーションの判断に用いられた地の文が僅かであった書籍 (例: 「夢を夢で終わらせないためのペット・ケアの仕事と資格」) なども含まれている。

¹⁵ 小説を除外し, タイトル判定とアノテーションで結果が不一致だったサンプルの NDC 分布を調べると, NDC3 番台 (23.0%) と 7 番台 (17.2%) の割合が大きい (他番台は平均的)。NDC7 番台 (芸術・美術) には, 芸能人やアスリートのエッセイ等 (例: 「ほんじよの眼鏡日和。」「ジャイアンツ愛」など) が含まれる。

4.3.3 結果(2)

タイトルから「語りかけ性」があると推測するにあたり、タイトルに判断根拠たる指標が含まれている・指標等はないがそれらしいと感じるという判定の付与を行った。作業員 A が「語りかけ性」があると推測したタイトルの 81%に指標が含まれるとし、作業員 B が同 76%に含まれるとした。作業員 2 名の判定一致率 (F 値) は以下の通りである(「講座～」のような、指標はあるが「語りかけ性」はない気がする」とコメントがついたタイトルを含む)。

- ・ それらしき指標がある一致率 (F 値) 76.6%
- ・ 指標はないがそれらしい (F 値) 40.9%

作業員 2 名の判定結果から、「語りかけ性」があると推定されたタイトルのうち、判断根拠となる特徴的な表現を含むタイトルが 8 割程度あり、また、作業員間の感覚も 8 割程度で一致することがわかった。

タイトルに含まれた特徴的指標は多様であるが、「語りかけ性」があるテキストと判断される根拠となる表現(呼びかけ(「あなた」など)・可能・勧誘・命令・評価・希望など)をはじめ、対象読者を示す表現(「～のための」・初心者向けであると示す「入門」「はじめて」「やさしい」など)、方法解説であると示す表現(「テクニック」「レッスン」「手引き」「教える」)などに分類され、ハウツー系書籍であることを明示する傾向がある。「語りかけ性」を有する書籍(特にハウツー系書籍)においては、タイトルに「語りかけ性」を推定させる特徴的指標を含む場合が多く、特徴的指標を含まない場合は、読み手の感覚に個人差が見られるといえる。

4.3.4 書籍タイトルと「語りかけ性」

書籍タイトルから、予めテキストに「語りかけ性」があると推測する場合、2 名で 8 割程度の推測が一致することがわかった。実際に本文を読んだアノテーション結果との一致は半数程度に留まったが、その理由として、小説や一部随筆など推測のしにくいジャンルや、「語りかけ性」があるサンプルの多いジャンルにおいても語りかけていないと受け取られる場合があるためと考えられる。また、書籍タイトルから「語りかけ性」があると推測される場合、その判断根拠として特徴的表現が含まれるという印象は 2 名で 8 割一致する。

以上により、書籍タイトルのみでもハウツー系書籍であるなどと判断されることで、語り手と読み手の教授関係が設定され、語りかけるという教示的態度が予め示されているという可能性はあろう。

5. まとめ:「ベテランは足を保護する」が語りかけるとき

5.1 「語りかけ性」を作り出す表現

「語りかけ性」は、特徴的表現によってその印象が作り出される。

まず、直感的に語りかけていると感じられる「あなた」「みなさん」のような呼びかけや、終助詞「ね」や丁寧体「です」「ます」のような読み手を意識したと考えられる表現は、実際に「語りかけ性」があると判断されるテキスト群における出現頻度も高く、「語りかけ性」があるという印象を形成するのに特徴的といえる。

次に、一つ一つの表現がそれだけで特徴的とは呼び難く、語レベルの出現頻度を調べても目立たないが、文脈上、読み手が「語りかけ性」を受け取る種類の表現がある。直感的に語りかける表現がなくとも、テキストのまとめり全体の中に、この種類の表現が多いと感じた場合には、読み手は「語りかけ性」があると判断するのである。そのため、テキストのまとめりごとの出現量を調べると、「語りかけ性」があると判断されたテキストのまとめりには、その表現の出現量が多いという傾向が確かめられる。これらの表現もまた、「語りかけ性」に特徴的な表現と呼ぶことができるだろう。

しかし、読み手が語りかけている感じを受けると考えられる特徴的な表現が僅かであっ

でも、「語りかけ性」があると判断されるテキストもある。たとえば、「そのようにしましょう」「やめましょう」というような教示などは、記述せずとも読み手に明らかであるのなら省略され得る。すなわち、「語りかけ性」を有する文脈によって、特徴的な表現が含まれずとも語りかける感じが生じるためであろうと推測される。

たとえば、ハウツー系書籍では、前文脈に読み手の期待する条件があり、後文脈にその解答（結果・評価など）が示されるというような、文脈的に出現量の多い表現のあることが確かめられた。文を形成するそれぞれの語は特徴的な表現ではなく、文として特徴があるとも言い難くとも、語りかける印象を形成している可能性は考えられる。また、予めハウツー系書籍であるということが書籍タイトルから明らかであって、語りかけるという教示的な書き手の態度が推測されている場合もあろう。このように、「語りかけ性」が文脈や書き手と読み手の関係性の設定によって明らかな場合、特徴的な表現が省略されていても、読み手は語りかける感じを受ける可能性がある。よって、ハウツー系書籍でも読み手の要求に応じることが明示的であれば、「語りかけ性」を有する必要はないともいえる。タイトルから「語りかけ性」があることを予測した結果が、実際のアノテーション結果よりもNDC3番台（社会科学）とC-code2番台（実用）で多かったのは、このためもあろう。

5.2 「ベテラン」であること

ハウツー系書籍においては、使用される語彙が特徴的であることも考えられる。

ここでは、「ベテラン」に着目したい。例3では、初心者に向けて、「危険」や「ケガ」の恐れなどが述べられ、結論として「滑らないスニーカーなどを履くことを勧めている。その途中に「ベテラン」が「ブーツで足を保護」していることが挿入される。ここでの「ベテラン」は、「初心者」との対照として用いられていると読める（例5ではそのことが明示されている：網掛け部分を参照）。

3) すべると危険です。釣り上げられて跳ねた魚や自分の釣りバリでケガをするかもしれません。ベテランは、釣り物によっては真夏でも釣り用ブーツで足を保護しています。小物釣りでも滑らないスニーカーなどを履きたいものです。（再掲）

この文においては「ベテラン」が足を保護するという条件に対し、「ケガ」の恐れがないという結果の記述すら省略されている。このように、読み手の求める条件に対する解答を記述するという文脈も不要であるのは、「ベテラン」が、ハウツー系書籍の読み手にとって理想的なモデルを想起する語であるためと考えられる。また同時に、「ベテラン」でも「足を保護」するのであるから、初心者もそのように「しましょう」と勧める例示とも読めようが、その明示的な記述はない。

5) 一日も早く花が見たいということから、ベテランは「早蒔き」をします。その時期は7月下旬～8月上旬。発芽適温が十五度のパンジーや、なかでもヴィオラにとってはまだ暑く、そのままでは発芽させにくい上級者向けです。「標準蒔き」は8月下旬から9月上旬ですが、この時期でも外気温のまま発芽させるにはまだ暑すぎます。初心者や確実にを期したい場合には、9月中旬の「遅蒔き」がベスト。（著者不明「人気のパンジー」）

なお、例5は、「ベテラン」は「上級者（網掛け部分）」と言い換えられ、「初心者」と対照される存在であるが、「ベテラン」であるからできるのであって、「初心者」には無理であるから真似をするなという教示に用いられていると読める例である。この場合、「ベテラン」は「初心者」から遠い性質が焦点化されているが、やはり、初心者は「やめましょう」との記述は直接的になされてはいない。「ベテラン」のようなハウツー系書籍に特徴的な語彙によって、「語りかけ性」を有する文脈が明確化することで、「語りかけ性」を感じる特徴的表現類が省略されている可能性が考えられよう。

5.3 まとめ

「語りかけ性」という文体がどのように形成されているのか、「ベテランは足を保護する」という文を含むテキストを取りあげて考察した。

語りかける感じを与えると考えられる特徴的な表現を含まない文であっても、特徴的な表現が文脈上不要なテキストであれば、語りかけると捉えられる可能性がある。そのため、「語りかけ性」がどのような特徴的な表現から成っているのか、特徴的と考えられる各々の出現頻度からは捉え難いという現象が生じている。その場合、文脈上のパターンとして蓄積されたり(4.2)、書籍タイトルのようなもので前提的に書き手と読み手の関係性が設定されたり(4.3)することによって、直接的な表現がテキストから取得しにくくなっている可能性がある。

ハウツー系書籍は、「語りかけ性」の文体を戦略的に使用しており、「語りかけ性」が積極的に用いられる傾向がある。語りかけるといふ本来書きことばにない疑似的対話表現を用いることは、読み手の要求する解答を与える教示的な態度をその異質性によって明示するマーカーとして機能していると考えられる。特徴的な表現が出現頻度として高くなくとも、テキストのまとまりあたりの出現数として多い傾向(4.1)は、その表現が目立つように用いられれば良いためでもあろう。「語りかけ性」に特徴的な表現は、使用する必要がなければ省略可能であり、語りかける印象があっても、まったく出現しない場合すらあり得るのだと考えられる。

このように、「語りかけ性」のような文体的な性質は、直接的な表現をはじめ、文脈や、語り手と読み手の関係性などによっても形成され、多様に読み手へと語りかける印象を与えるのである。

文 献

- 柏野和佳子(2010)「直接的な語り」という表現スタイルをもつ書籍テキストの人手抽出の試み」ことば工学研究会, 35, pp. 63-72.
- 柏野和佳子, 奥村学(2012)「書籍テキストへの分類指標人手付与の試み—『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の収録書籍を対象に一」言語処理学会第18回年次大会予稿集, pp. 1260-1263.
- Levinson, S. C. (1990) *Presumptive Meanings: The Theory of Generalized Conversational Implicature*. Cambridge, MA: MIT Press.
- 岸本千秋(2005)「ネット日記における読み手を意識した表現」メディアとことば2「特集」組み込まれるオーディエンス, ひつじ書房, pp. 204-231.
- 三宅和子(2005)「携帯メールの話しことばと書きことば」メディアとことば2「特集」組み込まれるオーディエンス, ひつじ書房, pp. 234-261.
- 野田春美(2012)「エッセイ末における読み手を意識した表現」人文学部紀要, 32, pp. 39-54.
- 保田祥, 柏野和佳子, 立花幸子, 丸山岳彦(2012a)「語り性」を有する書きことばの典型例の分析」第1回コーパス日本語学ワークショップ予稿集, pp. 139-146.
- 保田祥, 柏野和佳子, 立花幸子, 丸山岳彦(2012b)「語りかけ性」を有すると判断される書きことばの表現」第2回コーパス日本語学ワークショップ予稿集, pp. 43-50.
- 保田祥, 柏野和佳子, 立花幸子(2012)「総体として印象を与える表現: 「語りかけ性」を有すると判断する根拠」ことば工学研究会, 41, pp. 3-10.
- 保田祥, 柏野和佳子, 立花幸子, 丸山岳彦(2013a)「アノテーターコメントを用いた「語りかけ性」分析の試み—頻度情報から捉え難いテキスト性質の解明に向けて—」言語処理学会第19回年次大会予稿集, pp. 358-361.
- 保田祥, 柏野和佳子, 立花幸子, 丸山岳彦(2013b)「書きことばにおける「語りかけ」は何のために用いられるのか」第3回コーパス日本語学ワークショップ予稿集, pp. 143-152.